スイレン 悩みの多鯰（タネ）ヶ池

農業用取水口に葉や根

鳥取砂丘に隣接し、スイレンの名所として知られる「多鯰（ね）ヶ池」（鳥取市浜坂）で、枯れて腐ったスイレンの葉や茎が農業用水の取水口を詰まらせるなどし、農家を困らせている。地元住民が定期的に除去しているが、繁殖力が強く、作業が追い付かないのが現状。池の水質悪化にもつながるとして、11日には環境省とイベントを開き、保全への理解を呼び掛ける。（滝口憲洋）

池を覆うように繁殖するスイレンへの対策を訴える飼牛委員長（鳥取市の多鯰ヶ池で）

除去追い付かず 水質悪化懸念

多鯰ヶ池は砂丘南側に位置し、周囲の長さは3・4キロ。水深は17・3メートルと、中国地方の池で最も深い。地元住民でつくる「浜湯山・多鯰ヶ池活性化委員会」によると、スイレンは約80年前、住民が観賞用にカナダから持ち込んだ。徐々に生息域を広げ、現在はカヌーでの観賞ツアーが開かれるほか、写真撮影や写生に訪れる人もおり、観光資源になっている。

一方、約5年前から、農業用水をくみ上げるポンプの取水口にスイレンの葉や根が詰まり、腐って悪臭も漂い始めたという。市の調査では、湖沼の水質汚濁の指標となる「化学的酸素要求量（COD）」は、4段階のうち最も悪い「C」に近くなり、市鳥取砂丘・ジオパーク推進課は「スイレンの繁殖が影響している可能性がある」とする。

一帯には梨や稲作の農家が多く、今のところ作物の生育に大きな影響は出ていないが、梨栽培をする橋本保さん（58）は「このまま水質が悪化し続ければ、収穫に響く」と困惑する。

地元住民が今年に入って10日程度、取水口の清掃や枯れたスイレンの刈り取りを実施したが、繁殖のスピードが速く、成果は上がっていないという。市は来年度、保全活動に補助金を出すことも検討。同委員会の飼牛（かいご）明委員長（69）は「スイレンは観光資源にもなっており、大規模に除去するわけにもいかず、対応が難しい」と話す。

鳥取大農学部の永松大教授（保全生態学）は「スイレンが水面を覆うと、水中に日光が届かないなど他の水中植物にも影響を与える。官民一体となって、観光と環境の折り合いを付けることが大切だ」としている。

◇

同委員会と環境省近畿地方環境事務所（大阪市）は11日午前9時～正午、池の環境保全に理解を深めてもらおうと、スイレンを抜き取り、ハンカチの草木染に活用するイベントを開く。参加費500円。対象は小学生以上で、先着15人。申し込みは、環境省浦富自然保護官事務所（0857・73・1146）。